

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02517

研究課題名(和文)柳田国男監修高等学校国語教科書所収教材の連携的・実践的研究

研究課題名(英文)A cooperation and practical study on teaching materials by which carried was carried out to the Japanese textbook of a high school which Yanagita supervised

研究代表者

佐野 比呂己(SANO, Hiromi)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：60455699

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：従前十分に研究されてこなかった柳田国男監修高等学校国語教科書を対象とした。本研究の意義としては、該当教科書の単元、その単元に配置された教材を中心に研究を進めてきたことにある。具体的には、単元、所収教材そのものを分析、考察を進めた。それをもとに研究協力者である高等学校教員との連携により高等学校国語教室での実践を行った。教科書及び教材としての有用性、限界を明らかにした。実践に対する意見交換を通して、時間を経ても現代の高等学校国語教室においても通用するものであるという結論に至った。これらの成果は学術雑誌に投稿、掲載された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従前十分に研究されてこなかった柳田国男監修高等学校国語教科書を対象と該当教科書の単元、その単元に配置された教材を中心に研究を進めてきた。具体的には、単元、所収教材そのものを分析、考察を進め、それをもとに高等学校教員との連携により高等学校国語教室での実践を行い検証した。教科書及び教材としての有用性、限界を明らかにした。時代に合わせた単元を構想する際、教材として活用できることを確認した。また、柳田国男の著作からアイヌ文化に関わる記述に着目し、多文化共生社会の構築の視座から、多文化共生社会に資する単元の構想について提案することができた。

研究成果の概要(英文)：A study on the Yanagita editorial-supervision high school Japanese textbook which was not studied has sufficiently so far been advanced centering on the teaching materials carried. While analyzing and considering the carried teaching materials themselves, it had a class in high school Japanese based on analysis and consideration by cooperation with the teacher who is a research partnership person. While considering the lesson, usefulness as teaching materials and a problem were extracted and teaching-materials value was examined. Even if the time passed, it had the common view that they were valuable teaching materials in present-day high school Japanese education. The report of these lessons contributed to the scientific journal, and was published.

研究分野：国語科教育学

キーワード：柳田国男 多文化共生社会 国語科教材 高大連携 随筆 記録 昭和30年代

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

柳田国男は教育に関する論考を多く残してはいる。しかし、教育学の視点からは十分な分析・考察が試みられていないのが現状である。たとえば、長浜功氏は柳田を「新しい思考を備えた教育学者」と高く評価している。一方で、日本の教育学が「柳田と遠い距離にあったという事実」を指摘し、柳田の考えを教育学に生かすことを提言している。

実は、柳田は教育学のみならず国語科教育においても強い関心を示している。戦前より『国語の将来』をはじめとする国語教育に関する論考を多く残し、戦後には小学校から高等学校までの国語科教科書づくりにも積極的に参加している。

日本の教育学が柳田と遠い距離にあったと同様に、柳田の国語教育論に関する研究についても、十分になされていないのが現状である。特に国語教育の領域からのアプローチは少なく、小山清、小久保美子、渡辺通子、坂口京子、研究代表者の研究がわずかにみられるだけである。

そのほとんどが柳田の国語教育論をその著作から明らかにしようとするものであり、実際の教科書から明らかにしようとするものではない。教科書そのものの研究については、民俗学や教育学の領域が大部分を占め、国語科教育の領域からは渡辺通子、坂口京子の研究と数少ない。また、渡辺、坂口の研究は小学校、中学校の国語科教科書が中心であり、高等学校国語科教科書については、民俗学の視点から杉本仁、田中正明の研究が見られるだけである。

## 2. 研究の目的

本研究は、科研費(23531235、15K04470)の成果をもとに、柳田国男監修検定高等学校国語科教科書(以下、「柳田教科書」と略す)所収教材を分析・考察し、「柳田教科書」所収教材の価値を検討するとともに、高等学校教員との連携により高等学校国語教室での実践を通して、その現代的意義を考察することを目的とする。「柳田教科書」所収教材、授業、そこで培われる学力、加えて現代的価値を高大連携により検討し、教材開発・選択の観点、教材からの授業の構想を提言し、新時代における国語教室の活性化に寄与することを目的とする。

柳田は高等学校国語科教科書づくりに、なみなみならぬ情熱を燃やす。大藤時彦「柳田先生と国語教育」(『教室の窓』昭和37年10月)によれば、高等学校国語科教科書づくりに際し、教材選択、単元構成などにも柳田は主体的に自ら取り組んだという。それは小中学校の国語科教科書づくりと比し、柳田の思想が最も顕著に表れていることは言うまでもなからう。高等学校国語科教科書づくりは柳田の晩年の仕事であり、柳田の学問の集大成と考えるとき、多様な視点から検討し、現代の国語教育のあり方を考察する上で有効であると確信する。

## 3. 研究の方法

「柳田教科書」所収教材を一つずつ分析していく。具体的には、中途段階にある「紙」(幸田文)の研究を進める。所収教材の中で「紙」だけが、他社教科書に採用されており、他は「柳田教科書」のみとなっている。「紙」は角川書店高等学校教科書にも掲載されている。教科書における取り上げ方も比較する。「紙」を研究することは「柳田教科書」の質の高さを検討する上で有効であり、柳田の国語教育論の波及についても確認する上でも重要である。加えて、当時の時代背景、学習指導要領、教科書改訂等を踏まえ、「柳田教科書」の特質に迫る。「柳田教科書」研究に業績のある研究代表者が担当し、研究分担者が補助する。

「紙」の研究を一定程度まで完了することで、単元「随筆」の教材の全てを取り上げたことになる。教材を単一にとらえるのみではなく、教材相互の関連、単元にも着目する。教科書における当該単元の位置づけ、単元の特徴なども明らかにしていく。

研究代表者のこれまでの教材分析を生かし、高大連携により高等学校国語科の授業で実験的に実践し、その成果と課題を検証する。具体的には高等学校教員を研究協力者とし、「柳田教科書」所収教材を使い、実際の教室で実践する。授業後、研究組織全体によって、その成果と課題を検証する。

柳田国男の著作からアイヌ文化に関わる記述に着目し、多文化共生社会の構築の視座から、研究チーム全体で学習会を行い、専門的知識の共有を図る。柳田がどのような意図を持って、教材選択に至ったのかを精査するために、柳田の思想そのものを理解し、そのこと関連づけながら考察していく。多文化共生社会の視座を据えることにより、柳田国語科教科書所収教材の現代的意義を提示する前提としたい。

## 4. 研究成果

「柳田教科書」所収教材から「紙」(幸田文)を分析、考察した。

また、柳田教科書所収教材の中から「浅春随筆」(栃内吉彦)「ろくをさばく」(三淵忠彦)「大

蛇・小蛇」(片山広子)を取り上げ、研究協力者である高等学校教員との連携により高等学校国語教室での実践を行った。実践に取り組むに際し、事前に日程打ち合わせ、教材研究会を行い、授業後には実践検討会を行った。実践報告から、教材としての有用性、普遍性を抽出し、教材価値の検討を行った。時間が経過し現代にそのまま通用しない部分もあるが、指導の際の補足により克服が可能であること確認した。

「紙」の研究を完了したことで、単元「随筆」の教材の全てを取り上げたことになる。単元「随筆」全体の研究を行った。単元設定の意義、構成、特徴、さらには教材選択について検討した。さらに、単元「随筆」の次に位置する単元「生活と記録」についても考察し、単元「随筆」を異なる視座から研究することができた。

大野眞男氏、小原俊氏からは専門的知識を提供していただき、今後の研究の方向性、研究に資する資料の提示等、ご指導いただいた。柳田の言語観、思想を理解することにより、柳田の教科書づくり、単元構成、教材選択の意図に迫ることができることを確認した。

柳田国男の著作からアイヌ文化に関わる記述に着目し、多文化共生社会の構築の視座から、研究チーム全体で学習会を行い、専門的知識の共有を図った。柳田がどのような意図を持って、教材選択に至ったのかを精査すべきであり、そのためには柳田の思想そのものを理解し、関連づけながら考察する必要がある。多文化共生社会の視座を据えることにより、柳田国語科教科書所収教材の現代的意義を提示する前提となるものである。研究チーム全体で共有を図ることができたのは大きな成果である。

研究成果は、図書2冊が発行され、学術雑誌に投稿し計11編の論文が掲載されるに至った。内4編は高大連携により取り組んだ実践研究報告である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 佐野 比呂己	4. 巻 18
2. 論文標題 柳田国男監修高等学校国語教科書における「記録」(1) : 単元「生活と記録」を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語論集	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 花坂 歩	4. 巻 18
2. 論文標題 読書行為に介入してくる現実態の間テキスト要因 : 柳田国男『海南小記』を検討の素材として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語論集	6. 最初と最後の頁 47-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 戸川貴之	4. 巻 18
2. 論文標題 アイヌ民族の物語を高校生と読み、創作活動を行う	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語論集	6. 最初と最後の頁 172-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 谷口守	4. 巻 18
2. 論文標題 山田秀三「アイヌ語地名を歩く」の教材化(3) : 指導資料作成の試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語論集	6. 最初と最後の頁 205-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅原利晃	4. 巻 18
2. 論文標題 柳田国男監修高等学校用国語科教科書所収教材「ろくをさばく」の出典に関する考察：瀧川政次郎『裁判史話』をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語論集	6. 最初と最後の頁 291-299
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐野比呂己	4. 巻 58
2. 論文標題 教材「紙」考(6)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 語学文学	6. 最初と最後の頁 27-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷口 守	4. 巻 17
2. 論文標題 山田秀三「アイヌ語地名を歩く」の教材化（2） 指導資料作成の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語論集	6. 最初と最後の頁 150-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原利晃	4. 巻 17
2. 論文標題 「大蛇・小蛇」の教材研究に関する考察 「陰陽師晴明、早瓜に毒気あるを占ふ事」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語論集	6. 最初と最後の頁 29-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐野 比呂己	4. 巻 16
2. 論文標題 教材「紙」考(5)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語論集16	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷口 守	4. 巻 16
2. 論文標題 山田秀三「アイヌ語地名を歩く」の教材化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語論集16	6. 最初と最後の頁 85-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口 守	4. 巻 16
2. 論文標題 「浅春随筆」から「浅春随筆」への移行と背景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語論集16	6. 最初と最後の頁 137-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 花坂歩
2. 発表標題 読書が引き起こす“イメージ空間”創出のための手探り - 深川明子の視点から -
3. 学会等名 釧路国語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 花坂歩
2. 発表標題 「読書」における巻き込み・巻き込まれ現象の検討
3. 学会等名 九州国語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋幸康
2. 発表標題 高等学校国語教科書における言語活動の特色
3. 学会等名 さいたま国語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋幸康
2. 発表標題 中・高等学校における言語活動の充実
3. 学会等名 さいたま国語教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅原利晃
2. 発表標題 「大蛇・小蛇」の教材研究に関する考察 「陰陽師晴明、早瓜に毒気あるを占ふ事」
3. 学会等名 釧路国語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 戸川貴之
2. 発表標題 アイヌの物語の焼き直し創作の実践計画
3. 学会等名 釧路国語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野比呂己
2. 発表標題 アイヌ文化と国語科教材
3. 学会等名 第135回全国大学国語教育学会東京ウォーターフロント大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐野比呂己
2. 発表標題 アイヌ文化と国語教育
3. 学会等名 釧路国語教育学会2月特別例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野比呂己
2. 発表標題 物語をつくる
3. 学会等名 さいたま国語教育学会2月例会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 本橋幸康
2. 発表標題 昭和30年代の高等学校国語教科書比較
3. 学会等名 さいたま国語教育学会11月例会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 井出幸男、影山正美、加藤秀雄、川松あかり、佐野比呂己、杉本仁、永池健二、西海賢二、福田アジオ、フレデリック・ルシーニュ、 黛友明、室井康成、吉沢明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 500
3. 書名 柳田国男以後・民俗学の再生に向けて	

1. 著者名 武藤清吾編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 288
3. 書名 中学校・高等学校 文学創作の学習指導 実践史をふまえて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>教材「紙」考(6)  <a href="http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/10930">http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/10930</a>  「大蛇・小蛇」の教材研究に関する考察 「陰陽師晴明、早瓜に毒気あるを占ふ事」  <a href="http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/11239">http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/11239</a>  山田秀三「アイヌ語地名を歩く」の教材化(2) 指導資料作成の試み  <a href="http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/11231">http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/11231</a></p>
---

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	本橋 幸康 (MOTOHASHI Yukiyasu) (80386549)	埼玉大学・教育学部・准教授  (12401)	
研究分担者	花坂 歩 (HANASAKA Ayumu) (20732358)	大分大学・教育学部・准教授  (17501)	
研究分担者	菅原 利晃 (SUGAWARA Toshiaki) (20826250)	北海道教育大学・教育学部・准教授  (10102)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	谷口 守 (TANIGUCHI Mamoru)	北海道月形高等学校・教諭	
研究協力者	戸川 貴之 (TOGAWA Takashi)	帯広北高等学校・教諭	
研究協力者	菅野 菜月 (SUGANO Natsuki)	北海道浦河高等学校・教諭	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関